教育センター通信

火床（ほど）の火の心を紡ぐ

第１０号（通算第１６号）
平成２７年１月７日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター　発行

学びのマルシェ（平成２６年１２月、嵐南小・第一中会場）

「小学校は…、中学校は…」から「自分は…」へ

教育センター指導主事　小杉　洋一

姫路サミットで見たＡ先生。中学３年数学「二次方程式」の授業。三角柱の水槽に入った水の深さを求める課題です。アクリル板で実寸の水槽を自作し、計算で求めた数値を実験で検証していました。納得できる考えに自然に拍手で反応する生徒の姿も見られました。

市内の学校に勤務するＢ先生。生徒が興味を持続できるように課題を配列し、授業の終末では解決方法の一般化を図る場を設けていました。また、終始、笑顔で生徒に接し、テンポのよい話し方をしていました。

２人とも中学校教員で、授業の手だてはとてもきめ細やかでした。

小中教員の授業のそれぞれのよさを「小学校教員は授業の手だてがきめ細やか、中学校教員は教材研究の専門性が高い」と言われることがあります。しかし、２人には小学校教員がもつと言われるよさがありました。

「小学校は…、中学校は…」と、小中の違いに目を向け、その違いを乗り越えようと取り組んできた小中一貫教育の、教員における効果の現れを２人の姿に見た気がしました。（きっと、教材研究の専門性が高い小学校教員もいることでしょう。）

市内の先生のエピソードをもう１つ紹介します。

秋に教育センターで、中学校教員対象の「小学校教員から学ぶ研修講座」を実施しました。その講座に参加した市内中学校のＣ先生は、事後アンケートに「『中学校教員が学ぶ』というより『自分の授業の足りない点を学ぶ』講座でした。」と感想を書かれていました。校種にこだわらず、「自分は…」という視点で内省をされていることに素晴らしさを感じました。

「自分は…」という視点をもつことで、小中一貫教育の取組、特に小中合同研修や乗り入れ授業が授業力向上に一層役立つように思います。

「小中一貫教育フォーラム in 三条」を開催

１１月２１日、燕三条地場産業振興センター（リサーチコア）で、標記の研修会を開催しました。

市内小中学校教職員、各中学校区推進協議会委員、他市の教育関係者、小中一貫教育全国協議会員など、１４０名が出席し、京都市教育長生田義久様による基調講演、文部科学省委託事業協力校の実践発表から、これまでの三条市の小中一貫教育の取組を振り返るとともに、来年度の全国サミット開催に向け、今後のさらなる充実・発展を考えるひとときとなりました。

【基調講演（要約）】演題「これまでの成果とこれからの小中一貫教育への期待」

１　京都市教育の基本

①明日の教育に、全ての学校の教育の向上につながる普遍性をもった教育改革を進めている。

②「教師は一人一人の子どもを徹底的に大切にする」「校長は一人一人の教職員を徹底的に大切にする」「教育委員会は一つ一つの学校を徹底的に大切にする」が伝統となっている。

③学校現場では、熱意あふれる先生方が意識改革・行動改革を徹底し、子どもたちのためにできること・やらなければならないことを最大限やりきっている。

④学校だけでは完結しないので、保護者・地域・大学・産業界・ＮＰＯ等々の幅広い市民の参画を頂き、地域ぐるみ市民ぐるみの教育を推進している。合言葉は“参画と協働”。

２　子どもの学びの育ちを縦・横に繋ぐ

①中１ギャップの克服、小１プロブレムの解消はもちろんだが、何よりも大切なことは義務教育９年間を見通して、就学前から高校まで子どもの学びと育ちを縦に繋いでいくこと。

②学校から家庭・地域へ、子どもの学びと育ちを横に繋ぎ、信頼関係を構築する。お互いの足りない点を批判し合うのではなく、補い合い、足し合い、高め合う関係をつくる。情報、課題意識を共有し、その解決に向けた行動を共有する。その評価・成果を共有し更なる改善に結びつける“共有サイクル”をつくる。

③「小中一貫教育を軸とした校種間連携」と「地域ぐるみの教育」を融合した取組の推進。

３　小中一貫教育推進の考え方

①<u>ステップを踏んで全市で展開</u>　推進校あるいは一貫校をつくりながら、その成果を生かしてそれぞれの学校の取組の内実を高め、平成２３年度に全市で実施した。

②<u>達成目標を明確にする</u>　「５つの視点」を明確にして各学校に提示し、取組を依頼した。

・小中学校で目指す子ども像を共有し、子どもたちの「生きる力」の育成を図る。

・カリキュラムの編成や指導形態等の工夫・改善を図り、「確かな学力」の育成を目指す。

・子どもたちの教育活動の連続性を高める。（児童生徒交流、部活動体験、合同宿泊行事）

・小中学校の教職員間の「連携」と「協働」を深める。（合同研修、乗り入れ授業等）

・家庭や地域との「連携」「協力」を一層推進する。

③<u>画一的な方法ではなく柔軟な方法で</u>　児童生徒や地域、学校の実態に対応して、多様なプログラムをとっていく。

形態　ア「施設一体型」…特色あるカリキュラム
イ「施設併用型」…小６が中学校で学習
ウ「連携型」（分離型）

カリキュラム等

ア　４・３・２制
イ　５・４制（２・３・２・２）
ウ　教科・教育課程別カリキュラム
・英語、算数・数学、理科、読解科
・生き方探求教育、環境教育　等

④<u>学校の取組から地域ぐるみの取組へ</u>　全教職員が９年間の学びと育ちに責任をもつ。学校の取組からスタートするが、そこにとどまるのではなく、地域全体が責任をもっていく。そんな地域ぐるみの取組へと進めていく。情報・課題、行動、評価を共有し、「中学校区」のまとまりの中で、子どもと共に育む活動を展開する。中学校区を単位に、小中一貫教育と学校運営協議会の活動を連動させる。

☆取組を進めていく上でのキーワードは「繋ぐ」

・<u>９年間の学習を繋ぐ</u>　学習の目標・内容、評価計画等を明確にした年間指導計画、シラバス（学びのみちしるべ）を作る。それを保護者にも配り、しっかりとやっていただく。

・<u>授業を繋ぐ</u>　小中を通して学びのルール、スタイルを「学びのスタンダード」ということで統一をしていく。

・小中を繋ぐ　教科担任制を導入。６年生の国語・社会・算数以外の教科は中学校籍の教員が担当。５年生は理科・家庭・音楽・英語で実施。英語活動は１年生からすべて中学校籍の教員が指導。キャリア教育、環境教育等を実施。６年生は中学校と同じスタイルで定期考査を年間５回実施。

４　小中一貫教育の成果

①児童生徒に関わるもの（文科省の実態調査より）
- いわゆる「中１ギャップ」の緩和
- 中学校進学に対する不安感の減少
- 下級生のお手本になろうとする意識の高まり
- 異校種、異学年、隣接校の交流の深まり
- 上級生への憧れ意識の高まり

②教職員に関わるもの（文科省の実態調査より）
- 小中学校共通で実践する取組の増加
- 小中教職員間の「協力して指導に当たる」「互いのよさに学ぶ」意識の高まり

③意識改革
- 地域：地域全体で子どもを育む姿勢
- 教職員：中学校ブロックで学力向上を図る

④小学校相互の連携（小小連携）の高まり
- 同じ中学校区の小学校が、様々な取組に対して歩調を合わせて中学校へ進学させる。
- 話型、ノート、学習規律の統一、合同宿泊

⑤学力向上・学力情報等の共有、具体的な協働
- 「京都市学習支援プログラム」の実施による小中一貫した学力の向上
- 小学校段階から中学校の学習スタイルに慣れ、スムーズに移行
- 学力結果の共有　小中合同研修会の実施

５　小中一貫教育の課題（文科省の実態調査より）

①教職員の負担感・多忙感の解消
②小中の教職員間の打ち合わせ時間の確保
③児童生徒間の交流を図る際の移動手段・移動時間の確保
④国に期待している取組
- 教職員定数上の措置　・教員免許制度の改善
- 学校施設整備の財政措置
- 教育課程、指導方法面の好事例の収集・普及

６　京都市における今後の方向

①地域を生かした小中一貫教育の推進
- 地域を生かした小中一貫カリキュラムの策定

②連携型（分離型）の取組の充実
- ５つの視点に立った取組の深化
- 達成状況の把握

③小中学校間の人事交流の促進
- 中学校区内の校長協議による提案制度

④小中一貫による学校運営協議会の設置

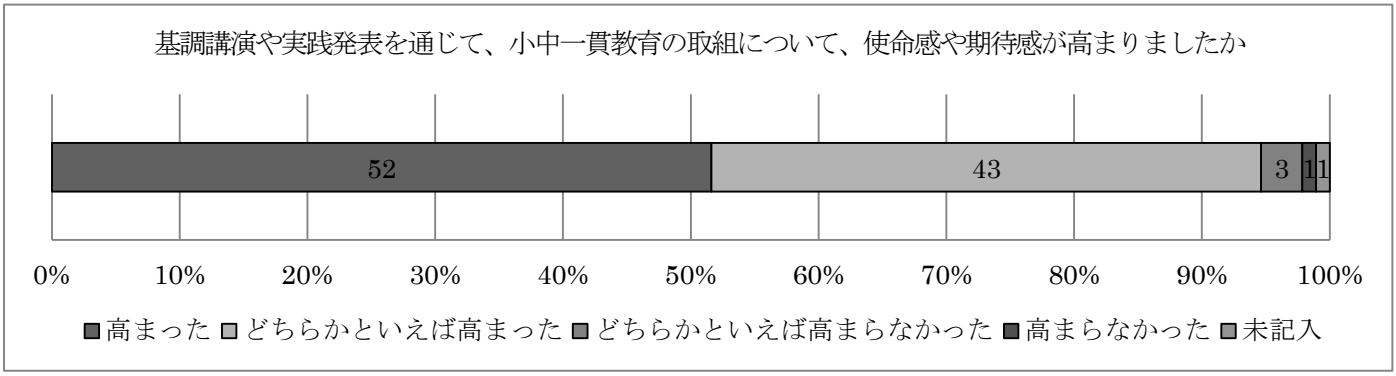
７　おわりに

小中一貫教育の目指すべき子どもの姿を描いていこう。そのために、小中一貫教育と地域ぐるみの教育を融合させながら、中学校区を単位に自立的な教育活動を展開していく。これができるかどうかが将来の我が国の教育の在り方を左右する大きな課題であると思っています。

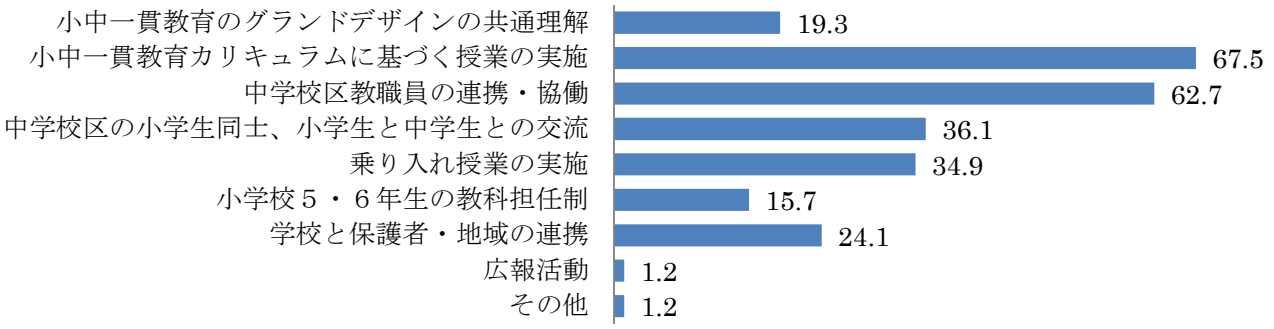
三条市の取組も含めて、今後とも互いに学び合い高め合っていきましょう。

【文部科学省委託協力校実践発表】　※左から順に「栄中学校区」「第一中学校区」「大島中学校区」

〔アンケート結果〕



基調講演や実践発表を通じて、小中一貫教育の取組の中で、今後さらに自中学校区において力を入れていきたいと思ったことは何ですか（３つ選択、全体集計）



【参加者の声】
- 京都市の取組に大変驚きました。５・４制などかなり思い切った考え方によい刺激を受けました。
- 大変素晴らしい実践発表になっていました。それぞれの中学校区が地域や学校の財産を生かした取組を行っていることがうまく伝わっていたと思います。自校の取組に生かせるものでした。
- 大変収穫の多いフォーラムでした。自校区でも取り組めるアイディアがたくさんありました。
- ＤＶＤでの三条市長の明確で強い思いが伝わりました。各中学校区のお取組に敬意を表します。
- 本日のフォーラムで学んだことを職員とともに着々と進めていきたいと思います。　（↑市外の方）

第３回小中一貫教育推進マネジメント研修会！～12月9日～

標記の会に、推進協議会長、推進リーダー、コーディネーター等３８名が参加し、下記２点について伝達・質疑・報告等を行いました。

①平成２６年度点検・評価実施計画、具体的な実施方法等の伝達
小池指導主事が、前回のマネジメント研修で出された意見等を踏まえた「『点検・評価』実施マニュアル」「依頼文」「アンケート」（最終案）を伝達し、質疑応答に入りました。１箇所の誤植を訂正後、アンケート用紙等を各校に配付しました。

②姫路サミット参会者からの報告
- ○中学校教員がメインとなった乗り入れ授業を参観。小学校と中学校が研修テーマの方向性を揃えることの大切さを学んだ。
- ○「分科会で実践発表をする段階はもう過ぎた。今後は成果（子どもの変容等）を示していくことが重要だ」というシンポジウムの講師の話を聞いて、その通りだと思った。
- ○参加した分科会の発表内容は、大筋、三条市でやっていることと同じだった。三条市のほうが進んでいる点もあった。
- ○内容の系統化はＯＫ！今後は能力の系統化を進める必要がある。

【受講者の声】
- アンケートの配布、回収を滞りなく行うよう頑張ります。
- 姫路サミットの話が聞けてよかった。資料があると、よりよかったと思います。
- 姫路サミットの話を聞いて、三条市の実践が全国的にも優れていることが分かり、よかった。
- 来年度のサミット開催に向け、早め早めの情報提供をお願いします。
- 本格実施２年目。各中学校区で課題もはっきりしてきたと思う。テーマを設定し（カリキュラムの修正等）、グループごとに協議するなどの研修内容を検討していくとよいと思う。
- カリキュラムの修正についての具体的な日程、方法を示してほしい。

※降雪や凍結による道路状況の悪化で児童生徒の交通事故が懸念されます。再度、安全指導の徹底をお願いします。先生方も車の運転には十分気をつけてください。ゆとりをもって出発を！